

除雪機で死亡事故などが多く発生しています

安全装置を無効にして死亡

事例

除雪作業中に転倒し、雪かき部分に巻き込まれて死亡した(2009年2月 北海道)。

原因

安全装置(デッドマンクラッチ)を働かないようにしていたため、転倒して手を離した際に除雪機が停止しなかったものです。

操作を誤って死亡

事例

除雪機と建物の間に挟まれているのを発見され、病院に運ばれたが死亡した。(2007年11月 長野県)

原因

後退させる際に操作を誤り、除雪機と壁との間に挟まれたものです。

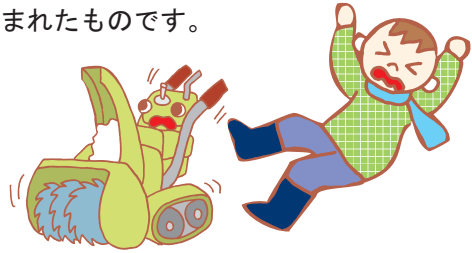
子どもが巻き込まれて死亡

事例

子どもが除雪機の回転部に巻き込まれ、死亡した。(2010年2月 秋田県)

原因

除雪作業中、側にいた子どもが、回転中の除雪機前部に巻き込まれたものです。



安全装置は、必ず正しく使用し、緊急停止スイッチも装着してください。

雪詰まりを取り除く際は、回転部が停止していても、突然動き出すことがあるのでエンジンの停止を確認してから、雪かき棒を使って行ってください。雪上は足元が滑りやすいので、後方への移動や斜面での転倒に注意してください。壁や障害物に十分注意してください。作業場所の安全を確保し、子どもを決して近づけないでください。

詰まった雪を除去中に指切断

事例

除雪機に右手を巻き込まれ、薬指を切断した。(2007年2月 山形県)

原因

回転部が完全に停止していない状況で雪かき棒を使用せずに手を差し込んだためです。



はしごから転落して骨折

事例

はしごを屋根に立てかけて雪下ろしをしていたら、転落して腰の骨を折る重傷を負った。(2009年2月 山形県)

原因

足場を十分に確認しなかったため、はしごの足の端具が滑って転落したものです。



はしごや脚立は、柔らかい場所や凍った地面、段差のあるところに設置しないでください。また、補助者が支えてください。脚立をはしごとして兼用できるものは、裏面側は絶対に使用しないでください。

社告・リコール中のハロゲンヒーター等で事故



左の3種は社告・リコール該当製品の一部です

社告・リコール中のハロゲンヒーターやカーボンヒーターで事故が多発しています。また、石油やガスストーブでも社告・リコール品が多くあります。

お使いの製品をNITEホームページで確認してください。

<http://www.nite.go.jp/jiko/leaflet/leaflet.html>

 このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。

